

## 3 流域の社会特性

那珂川流域は栃木県、茨城県と福島県の13市8町1村に含まれ、流域関連市町村の人口は、平成12年国勢調査によると約103万人である。流域の土地利用の状況は平成12年度では田22%、畑17%、宅地10%、山林51%となっている。

那珂川の水は、江戸時代には小場江用水、備前堀（伊奈堀）等の整備により灌漑に利用され下流の水田開発を可能とした。また上流では、明治18年に那須疏水が開削され那須野原の開拓を促した。これらの用水は現在においても栃木、茨城両県の農業、発電、工業、上水道等の重要な水源として活用されている。

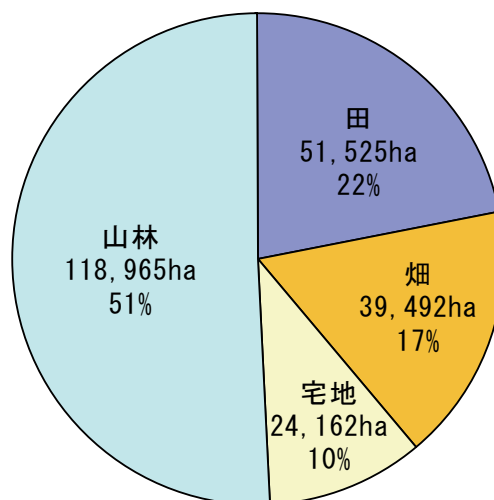
上流域の主要な産業は、水稻・畑および乳牛の飼育を中心とする畜産業や、ゴム製品や金属加工、電子部品などの工業である。那須高原は牧草地が広がる景観が特徴的で、温泉地や避暑地としてよく知られており、観光業が盛んである。中流域の那須烏山市や茂木町などの谷底平野では、水稻を主とした農業、山間部では林業や畑作農業が営まれ、河川では薬やキャンプ場等の観光利用も盛んである。下流域は人口が多く、水戸市を中心とした商業活動のほか、ひたちなか市や那珂市では電気機器、原子力関連の産業も盛んで、日立市や東海村とともに茨城県北部の工業地帯の一角を占めている。また、ひたちなか市や大洗町には江戸時代から栄えてきた漁港があり水産業が盛んである。水戸市周辺には偕楽園や弘道館をはじめとした歴史・文化的な名所や旧跡が多く、河口付近のひたちなか市および大洗町では砂浜海岸や水辺プラザ\*、水族館等の観光レクリエーション施設があり、県内外から多くの人が訪れている。

那珂川流域は首都圏と東北地方を結ぶ交通網の中間地点にあり、上流域では東北自動車道、JR東北新幹線や東北本線、下流域では常磐自動車道やJR常磐線が横断している。

那珂川はわが国有数の清流を誇り、アユ釣りをはじめ散策や親水レクリエーション、高水敷でのスポーツなど活発に利用されている。特に上流～中流では、豊かな自然の中のキャンプやカヌー等の自然レクリエーション利用が多い。下流においても良好な水質を保っているおりカヌー・ボートなどの水面利用が多くみられるほか、支川桜川の遊歩道や休憩広場、堤防上のサイクリングロード、水戸や大洗の水辺プラザ等の親水空間の整備が進められ、多くの人々に利用されている。

## \*水辺プラザ

河川や溪流の水辺の魅力を生かし、市町村と国土交通省が地域の交流拠点と一体・連携して進める水辺整備。



(茨城県統計年鑑, 栃木県統計年鑑)

図1-6 那珂川流域の土地利用割合